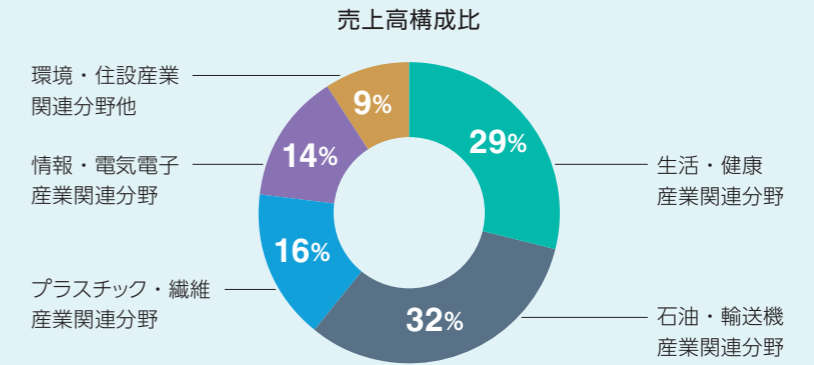


## セグメント別概況

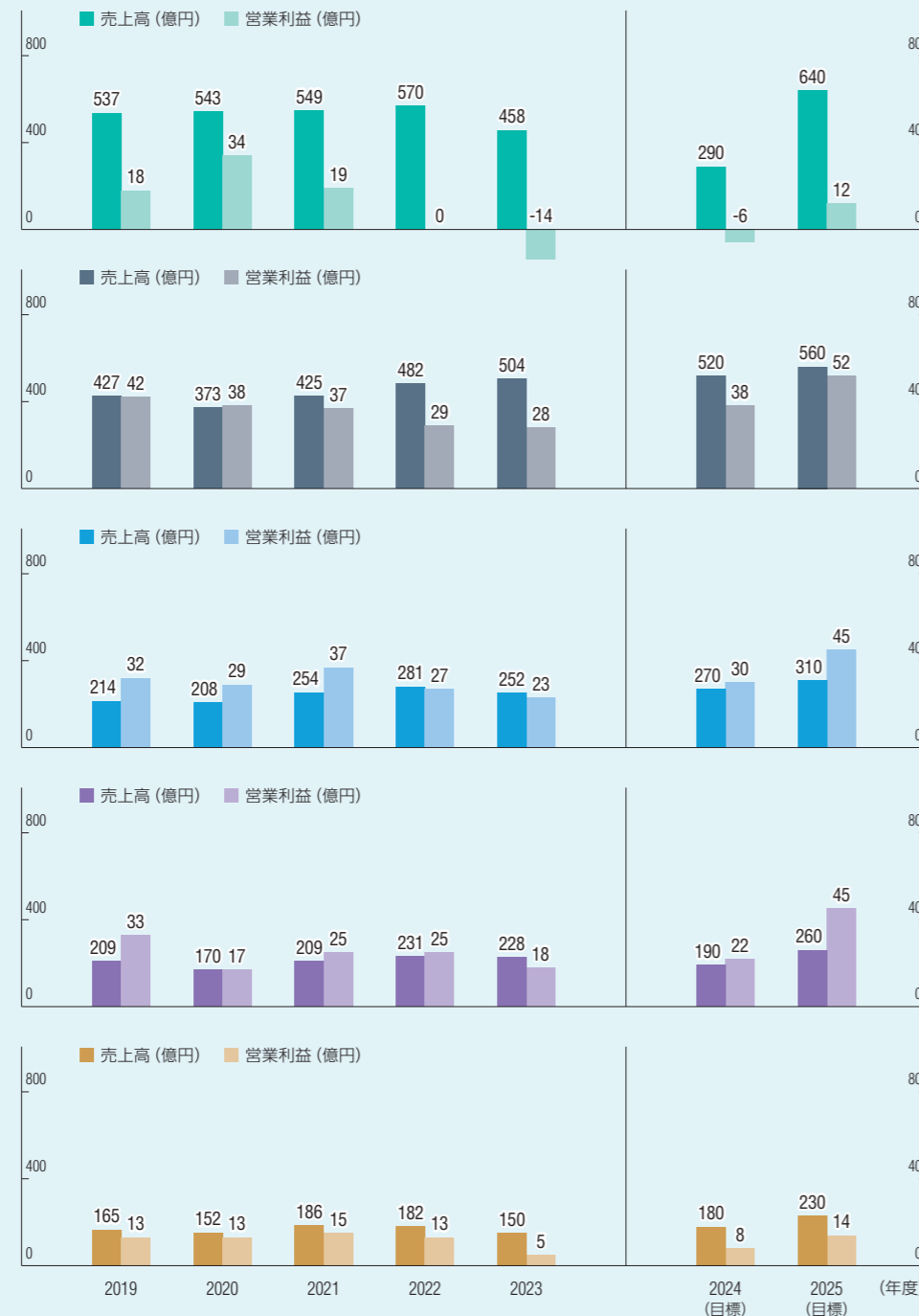
当連結会計年度の売上高は、販売量の減少などにより1,595億円(前期比8.8%減)となりました。利益面では、販売量の減少や新基幹システム稼働に伴う減価償却費の増加などにより営業利益は48.8億円(前期比39.8%減)、経常利益は81.8億円(前期比17.5%減)、親会社株主に帰属する当期純損失は子会社における減損損失の計上や高吸水性樹脂事業および中国における生産事業からの撤退に係る損失(事業構造改革費用)の計上などにより85.0億円(前期は56.8億円の利益)となりました。

売上高 **1,595億円**  
営業利益 **48.8億円**



売上高/セグメント営業利益

中計2025における目標



当期のセグメント概況

生活産業関連分野は、液体洗濯洗剤用界面活性剤およびポリエチレングリコールが国内外共に市況が低迷し需要が減少したため、売上高は減少しました。健康産業関連分野は、高吸水性樹脂が日本およびアジアで販売数量が減少し、売上高は大幅に減少しました。当セグメントの売上高は458億円(前期比19.6%減)、営業損失は14.2億円(前期は0.2億円の利益)となりました。

石油・輸送機産業関連分野は、自動車シートなどに使われるポリウレタンフォーム用原料が海外安価品の流入により低調でしたが、潤滑油添加剤、自動車内装表皮材用ウレタンビーズが好調に推移したため、売上高は順調に推移しました。当セグメントの売上高は504億円(前期比4.6%増)、営業利益は28.1億円(前期比4.0%減)となりました。

プラスチック産業関連分野は、永久帯電防止剤が電子部品需要低迷のため低調となり、塗料コーティング用薬剤・添加剤も需要が減少し売上高は減少しました。繊維産業関連分野は、風力発電用風車向けの炭素繊維用薬剤が低調に推移し、またタイヤコード糸等の製造時に使用される油剤の需要回復が遅れており、売上高は低調に推移しました。当セグメントの売上高は252億円(前期比10.4%減)、営業利益は23.6億円(前期比14.9%減)となりました。

情報産業関連分野は、トナー関連材料の需要が減少したものの、原料価格高騰等による価格改定により売上高は横ばいとなりました。電気電子産業関連分野は、半導体市場の回復により関連材料の売り上げが増加しましたが、アルミ電解コンデンサ用電解液が民生用の不調により、低調に推移し売上高は減少しました。当セグメントの売上高は228億円(前期比1.3%減)、営業利益は18.3億円(前期比27.0%減)となりました。

環境産業関連分野は、高分子凝集剤用のカチオンモノマーの需要が低迷したため、売上高は低調に推移しました。住設産業関連分野は、家具・断熱材などに用いられるポリウレタンフォーム用原料および建築シーラント用原料の販売が減少しました。当セグメントの売上高は150億円(前期比17.8%減)、営業利益は5.3億円(前期比60.7%減)となりました。

主要製品

洗剤・洗浄剤用界面活性剤、ヘアケア製品用界面活性剤、製紙用薬剤、高吸水性樹脂(SAP)、医薬品原料、殺菌消毒剤、外科用止血材、EIA(酵素免疫測定法)用臨床検査薬、人工腎臓用ポッティング材

自動車内装表皮材用ウレタンビーズ(TUB)、ポリウレタンフォーム用原料(PPG)、潤滑油添加剤、燃料油添加剤、水溶性切削油、非ハロゲン系洗浄剤、合成潤滑油ベース、デザインモデル製作用盛り付け樹脂、自動車塗料用樹脂

永久帯電防止剤、顔料分散剤、樹脂改質剤、塗料用樹脂、消泡剤、ポリウレタンエラストマー原料、モデル製作用合成木材、繊維製造用薬剤、炭素繊維用薬剤、ガラス繊維用薬剤、人工皮革・合成皮革用ウレタン樹脂

重合トナー中間体ポリエステルビーズ(PEB)、トナーバインダー、アルミ電解コンデンサ用電解液、電子材料用粘着剤、電子部品製造工程用薬剤、UV・EB硬化樹脂

廃水処理用高分子凝集剤、カチオンモノマー、家具・断熱材用PPG、泥水用薬剤、反応性ホットメルト接着剤、建築シーラント用原料、セメント用薬剤

(注) 各報告セグメントの営業利益は各セグメントに帰属しない新規事業に係る研究開発費を含まずに算出しております